
チョコレートとキャンディ

月姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チヨコレートとキャンディ

【Nコード】

N5307B

【作者名】

月姫

【あらすじ】

バレンタインにホワイトデー。一部の人々を除いて、高校生あたりには心踊るイベントのはず。そんな甘い日の、甘くない平次と和葉の一幕。

『チヨコレートはほろ苦く』

2月14日。

全国的にバレンタインデーと言われる一大イベント。

ピチピチの高校生である平次も例に漏れず巻き込まれ、華やかにラッピングされたブツを詰め込んだ紙袋を抱えての帰宅となった。

平次としても、一応健全な男子高校生である以上、バレンタインにチヨコを貰うと言う事は嬉しくはあるのだが、そこはやっぱりお年頃、気になるあの娘から貰いたいワケで……。

「……………で、コレは何やねん」

自室に戻って荷物を置いて、ふうと一息ついた所で、机の上の異変に気がついた。

綺麗に片付けられた机の上には、大量のチロルチヨコ。

それも三段重ね。

上から見下ろすその形は、見間違えようのない二文字。

『アホ』

平次の額に、ピキッと青筋が立った。

自分の留守中に部屋に入り込んでこんなイタズラをかませるヤツは、一人しかない。

そう言えば、今日は用事があるとかで、授業が終わるや否や学校を後にしていた。

「今年はコレで我慢しろっちゅーんか？」

毎年『義理』と言われながらも、丁寧に手作りされたチョコを貰っていた身としては、腹立たしい事この上ない。

それが自業自得と理解していてもだ。

「……ホワイトデー、楽しみにしとれよ」

『キャンディーは仄かにすっぱく』

3月14日ホワイトデー。

世間一般では3倍返しは当たり前などと言われている、男性諸君には少しばかり悩みの日。

先月たつぷりとチョコを貰った平次はと言えば、去年同様、道場の片隅にキャンディーの入った袋をポンと置いて、練習の合間に、尋ねて来る女の子達に手渡していた。

用意したのは、勿論和葉だ。

「義理チョコにお返しなんいらんやろ」

と言う平次に、

「キャンディー1個でも、お返しが貰えるだけで嬉しいもんなんよ？」

と返して、平次が適当に買ってきたキャンディーを小袋に分けて仕度するのは、ホワイトデー前の習慣になりつつある。

和葉にしてみれば心穏やかではない部分もあるのだが、1つだけ平次が袋詰して『これ、お前の分や』と渡してもらえる事に、小さな満足感も得ているのだ。

だが今年は『お前の分は別に用意したったから』と、当日帰りに服部家に寄るように言われ、和葉は、ほんの少しの期待と多大なる不信感を持って、早々に帰宅の途に着いた。

そして……。

「何なん、コレ？」

平次の部屋の机の上、大きなパーティー皿には色とりどりのキャンディーが敷き詰められ、その上には、まるで雪のように真っ白なマシユマロが鎮座していた。

『和葉へ』というメモが添えられたその品は、上から見下ろせばカラフルなキャンパスに白で書かれた『ボケ』。

和葉の頬が、ひきつと引き攣った。

二人の恋は、まだ遠い？

(後書き)

『チロルチヨコでアホと書く』をやりたかったんです。
多分、平次はバレンタイン直前に約束をドタキャンでもして、和葉を怒らせたんでしょう(笑)。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5307b/>

チョコレートとキャンディ

2010年11月24日06時07分発行